

ラポール Rapport

Asahikawa Kosei Hospital 

診療科特集/消化器科

2024
11

地域の先生方と連携し
スムーズな医療提供を
実現します

What should I do? 患者さん紹介

連絡先

旭川厚生病院 地域医療連携室

つながる **窓** つなぐ **口** つなげる

① 地域医療連携室

0166-33-7575 (直通)

●受付時間: 平日8時30分~16時30分

② 代表電話

患者さんの紹介であることを
電話交換にお伝え願います。

0166-33-7171

●受付時間: 平日8時30分~16時30分

※1 ①の直通電話が話中の際は、②代表電話に電話をいただくことで電話交換から地域医療連携室担当者へ取り次ぐようにいたします。緊急を要する場合は各科診療科へ繋ぐようお願いください。

※2 時間外の場合は、救急外来(代表電話)へご相談ください。

繋がる



ラポール
Rapport
Asahikawa Kosei Hospital



旭川厚生病院
消化器科

J A 北海道厚生連 旭川厚生病院

〒078-8211 北海道旭川市1条通24丁目111-3 TEL.0166-33-7171 FAX.0166-33-6075

「Rapport (ラポール)」とは、フランス語で「つながり」「架け橋」、心理学用語で「信頼関係」を意味する言葉です。本誌は、旭川市のシンボル「旭橋」のように地域の皆様と当院がつながり、信頼関係を築けるような広報誌を目指します。

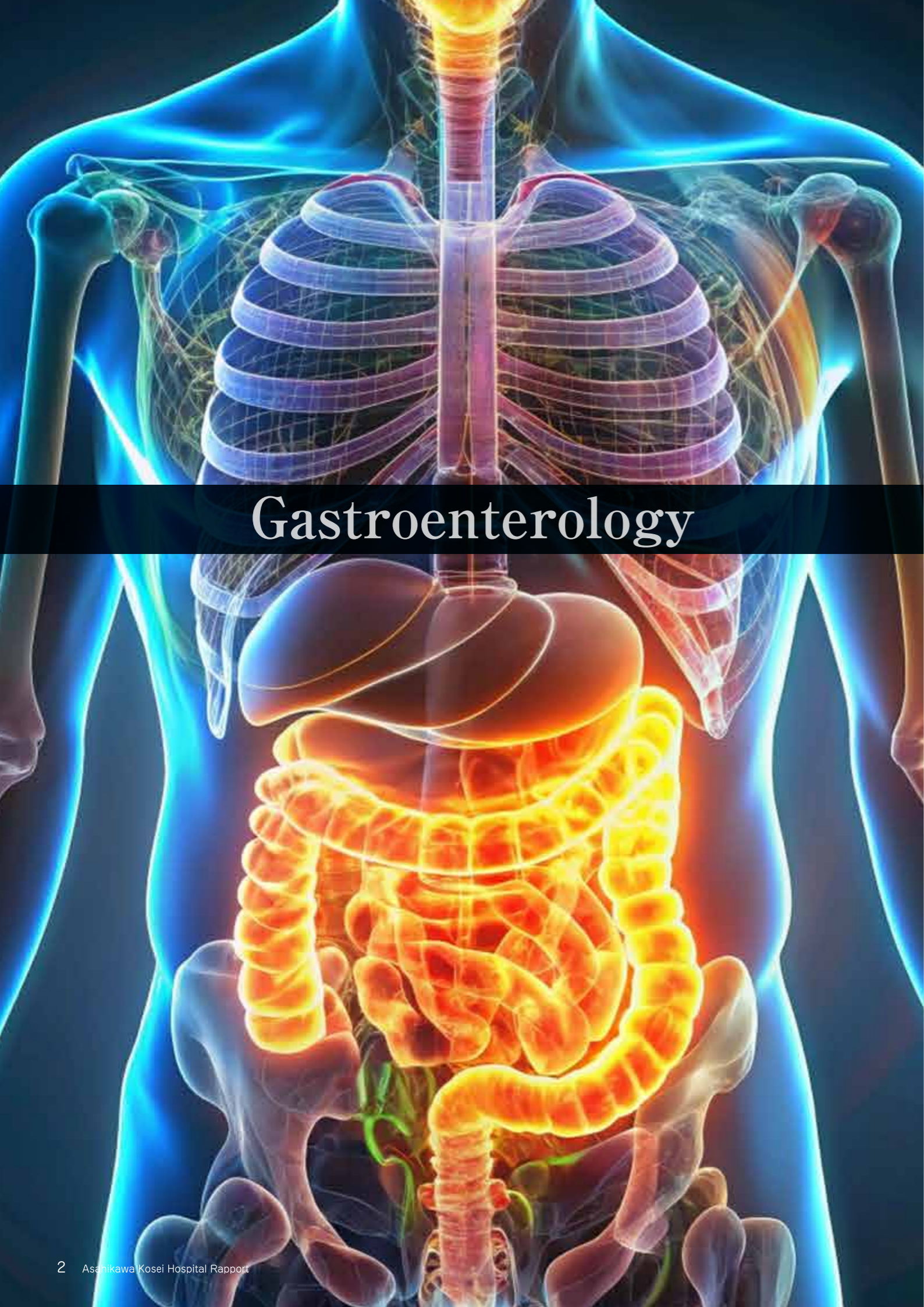
取材・編集 / 東洋株式会社 旭川支店



旭川厚生病院
診断群分類別患者数



Instagram
アカウント名
asahikawakosei_hospital



Gastroenterology

特集

消化器科

診療科特集第一回目は「消化器科」

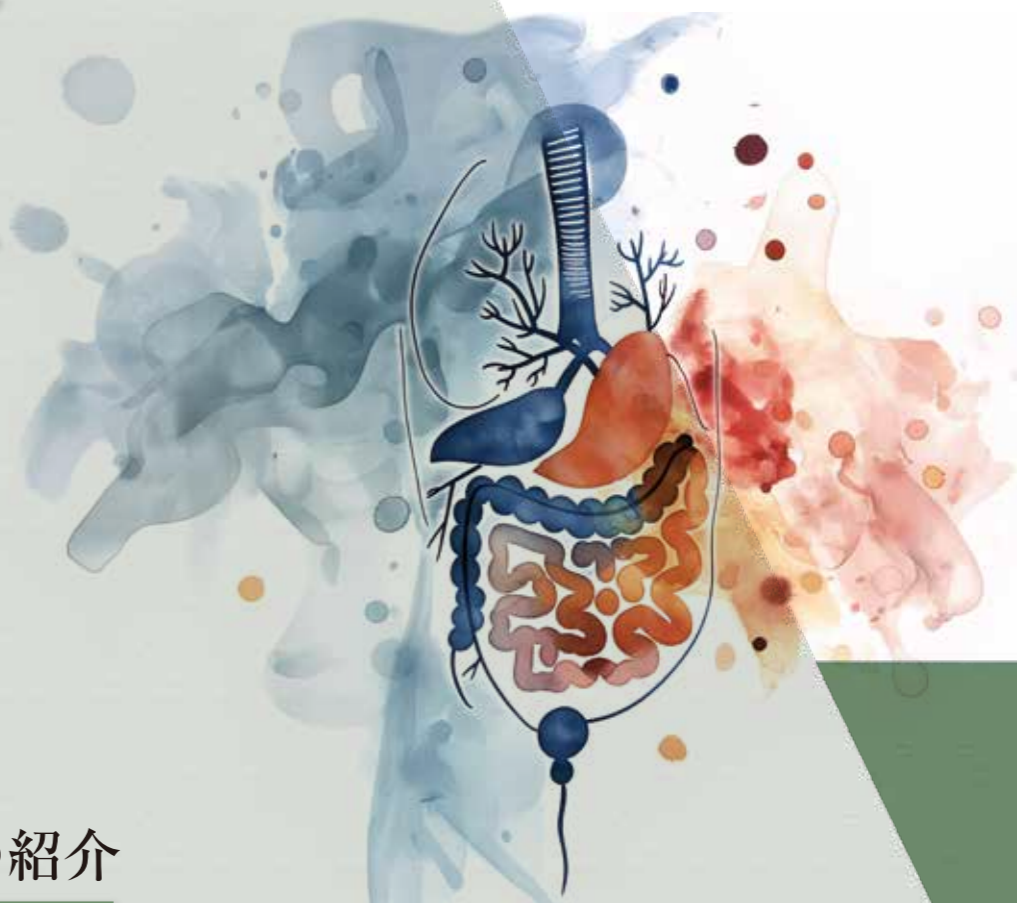
今回は消化器科「消化管・胆膵・肝臓」

について紹介します。

地域の先生方と連携し

スムーズな医療提供を実現するため

信頼される医療を目指します。



消化器科の紹介

常勤医10名が消化管、胆膵、肝臓の3つのグループ体制で診療しています。

急性期疾患に対する迅速な診療、そして各消化器がん診療については様々な症例に対して各種画像・臨床検査所見から診療ガイドラインに基づいて内視鏡治療や専門的な薬物治療を行っています。

地域の医療を

共に提供したい！。

当院の消化器科は関連の深い外科や放射線科、病理診断科や緩和ケア科など多くの診療科と協力し、詳細に検討してより良い治療方針へ導けるように消化器科医師全員で取り組んでいます。何よりも患者さんに寄り添った優しい検査・治療・説明を心掛けています。また、がん遺伝子パネル検査のほか、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの薬物治療、最新の内視鏡機器導入と治療手技の習得、苦痛が少ない安全な内視鏡のためのセデーションを積極的に行っています。



メッセージ。

ご紹介いただく医療機関さまへ

日々、地域の患者さんを診療いただいている中で消化器疾患はもちろんのこと、軽微な腹部症状や消化器かどうか迷う時、検査を受けてみたいなどの些細なきっかけで全く構いませんので、どうぞお気軽に当科にご紹介いただければ幸いです。必要な場合は該当する科に当科から紹介するなどの対応もいたします。当院での治療が終了し状況が落ち着きましたら、その後の外来治療の継続をお願いできればと思います。また、経過の中で状態の変化や定期検査、気になる点がございましたら、いつでも当科にご連絡いただければ対応いたします。

信頼され選ばれる病院を目標とし、地域住民の健康を守る医療を各医療機関の皆様と一緒に提供したいと思います。

副院長
兼健診センター長
兼医療支援部長

後藤 充

専門 / 消化管

日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本内科学会認定内科医
緩和ケア研修修了者

1997年 旭川医科大学第三内科
1998年 市立旭川病院
1999年 士別市立病院
2001年 手稲漢仁会病院
2003年 旭川厚生病院
2004年 旭川厚生病院 消化器科医長
2010年 旭川厚生病院 消化器科主任医長
2014年 旭川厚生病院 消化器科主任部長
2020年 旭川厚生病院 診療部長
2023年 旭川厚生病院 副院長(兼)健診センター長(兼)医療支援部長

消化器科診療実績

	2021年	2022年	2023年
外来新患数	1,954	2,156	2,239
外来延数	30,012	29,518	28,139
新入院数	2,209	2,230	2,387

消化管 グループ

DIGESTIVE TRACT GROUP

消化管グループでは、対象疾患の代表である消化管がんを中心に、胃・十二指腸潰瘍や大腸憩室炎、虚血性腸炎などのCommon Diseaseから、大腸ポリープなどの良性腫瘍、炎症性腸疾患、消化管出血やイレウスなどの救急疾患まで幅広く診療を行っています。

消化管腫瘍の診療

拡大内視鏡や内視鏡画像診断支援システム(CAD-EYE)などの診断機器を導入し、検査を実施しております。

手技の難易度が高い内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)をはじめとした各種内視鏡治療が実施可能であり、簡便で安全性の高いコールドスネアポリペクトミーや浸水下で腫瘍の内視鏡的切除を行うunderwater EMRなどの比較的新しい治療手技にも積極的に取り組んでいます。

消化管がんの診療

内視鏡治療、手術治療、化学療法、放射線治療、緩和治療など多岐にわたる治療に対応するため、外科、放射線科、緩和ケア科、病理診断科、遺伝・ゲノム診療科をはじめとした各診療科と密な連携を行っています。科内および他診療科や他職種との間で情報を共有し、最適な治療を提供できるように努めております。

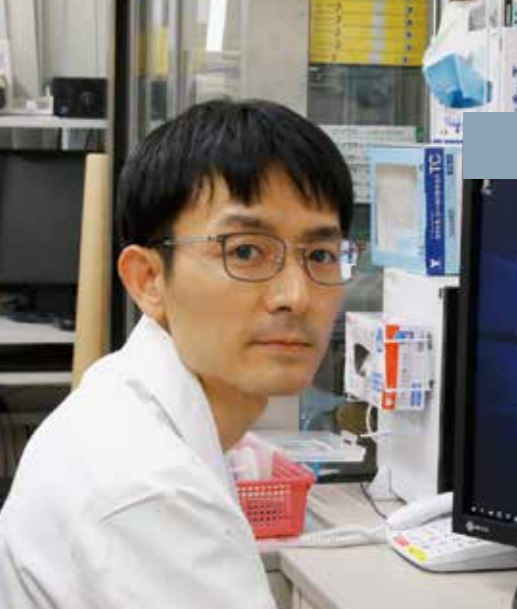
炎症性腸疾患(IBD)の診療

近年、潰瘍性大腸炎やクローン病などIBDの患者数が増加しています。当グループでは現在、潰瘍性大腸炎約200名、クローン病約70名の診療を行っております。5-アミ

ノサリチル酸製剤やステロイドといった基本薬から抗TNF α 製剤をはじめとする生物学的製剤、JAK阻害薬などの新規分子標的薬に至るまで、多くの治療を行うことが可能です。

地域の連携医療機関さまへ

当グループでは数多くの消化管疾患に幅広く対応させていただいております。消化管出血に対する内視鏡的止血術やイレウスでの内視鏡的減圧術(イレウス管挿入、大腸ステント留置)など、緊急性の高い疾患も極力受け入れられるよう体制を整えております。地域の医療機関と患者さんの医療情報を共有し、検査から診断、治療の選択、フォローアップの相談までしっかりと連携しながら対応させていただければと思います。



消化器科医長 田中 一之

専門/消化管

日本内科学会総合内科専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
日本カプセル内視鏡学会認定医・指導医
緩和ケア研修修了者

2009年 遠軽厚生病院
2011年 旭川医科大学第三内科
2012年 遠軽厚生病院
2013年 旭川医科大学第三内科
2017年 旭川厚生病院 消化器科医長

内視鏡医療の充実

新しい治療手技への積極的取り組み！



消化管グループ

副院長 後藤 充
主任部長 佐藤 智信
医 長 田中 一之
医 員 小野田 翔

消化管G診療実績

消化管内視鏡	2021年	2022年	2023年
上部消化管内視鏡検査	5,927件	6,253件	7,083件
下部消化管内視鏡検査	1,891件	1,783件	1,784件
ESD (内視鏡的粘膜下層はく離術)			
食道ESD	15件	10件	7件
胃ESD	47件	44件	53件
大腸ESD	25件	24件	27件

胆膵グループ

BILIOPANCREATIC GROUP

胆膵グループは主に急性膵炎や胆石による胆嚢炎、胆管炎などの良性疾患や胆道癌、膵癌などの悪性疾患に対する診断、加療を行っています。

医師4人のチーム制で、入院患者に関しては消化器科カンファレンスとは別に週に一度のチームカンファレンスを行い、全員で画像診断、治療方針の確認を行います。治療方針に依り、外科や放射線科、緩和ケア科とも連携し、手術から終末期医療まで責任をもって加療しています。

増加傾向にある胆のう炎治療

近年、患者さんの生活習慣の変化、高齢化にともない、胆石による炎症が増加しています。全身状態良好である中等度までの胆のう炎に関しては腹腔鏡下胆のう摘出術が推奨されますが、様々な患者因子により、内科的な

■胆膵 G 診療実績			
	2021年	2022年	2023年
ERCP	595件	630件	680件
EUS	151件	78件	83件
EUS-FNA	80件	61件	67件

ドレナージの必要が高まっています。ガイドラインで推奨される経皮経肝的胆のうドレナージ術は、抗血栓薬内服中の高齢患者さんでは出血のリスクや自己抜去のリスクが高くあります。そこで当院ではエキスパートによりERCP処置で経乳頭的に胆のうドレナージステントを留置します。ステント留置後の再燃率は低く、手術リスクのある患者さんにとっては永久的な代替処置となります。また術後再建腸管における小腸バルーン内

視鏡を用いたERCPや、超音波内視鏡を使用した画像診断、超音波内視鏡下腫瘍穿刺による組

織診断や、のう胞、胆道ドレナージなど専門的な処置を安全性に十分配慮し行っています。

胆膵グループ
主任部長 藤永 明裕
主任部長 河本 徹
医 員 後藤 聖樹
医 員 真口 遼香
研 修 医 森山 響子



手術から終末期

医療まで責任を持って加療。

地域の連携医療機関さまへ

当院消化器科の受け入れ体制は、夜間は救急体制により個別の対応をさせていただくことはあるものの、平日日中は、「救急要請」「地域からの紹介」すべての患者さんを受け入れる体制を整えています。またご紹介いただく施設の負担も鑑み、「Dr.todor」の連絡も不要とし、外来への連絡のみで、ご紹介いただけるようにしております。胆膵疾患に関しては採血やエコー検査だけでの診断確定が難しいことも多く、疑わしい時点でご紹介いただけてかまいません。

地域医療施設と連携を図りながら可能な限り多くの患者さんの対応をさせていただければと考えています。

消化器科主任部長

藤永 明裕

専門/胆膵

日本内科学会認定内科医
緩和ケア研修修了者

2005年 旭川厚生病院
2012年 旭川厚生病院 消化器科医長
2022年 旭川厚生病院 消化器科部長
2023年 旭川厚生病院 消化器科主任部長

医師が治療方針を決定しています！。

経験豊富な



肝臓グループ

LIVER GROUP

肝臓グループは急性肝炎や慢性肝炎などの
 良性疾患や肝細胞癌など悪性腫瘍に関する
 診断、加療を行っています。

良性疾患

医師は二人体制と少ないものの、研修医やコメディカルの方々に支えられながら日常業務を行っています。他グループと同様に消化器内科でのカンファレンスの他、毎朝ミニカンファを行うつつ治療方針を決定しています。

当グループで主に診る疾患についてお話します。まず良性疾患では、肝炎などの肝障害を挙げます。昨今の薬剤の発達によりB型肝炎やC型肝炎がコントロール可能となってきました。外來の投薬治療が可能となりました。その一方で代謝機能関連脂肪性肝炎(MASH)やアルコール関連肝疾患(ALD)などが比率として上昇してきており、こちらに関しての治療も行っています。右記二つに関しては健診や他院からご相談いただき、採血、画像検査、必要に応じて肝生検を

悪性疾患

次に悪性疾患ですが、肝細胞癌を挙げます。早期のものであれば外科と相談の上で手術療法や内科的治療としてのラジオ波焼灼術、手術適応外の例に対しては内科的治療として抗癌剤治療や肝動脈化学塞栓療法などを行う場合もあります。抗がん剤治療に関しては導入時は入院が必要となりますが、継続していく場合には外來でフォローアップを行っています。

次に悪性疾患ですが、肝細胞癌を挙げます。早期のものであれば外科と相談の上で手術療法や内科的治療としてのラジオ波焼灼術、手術適応外の例に対しては内科的治療として抗癌剤治療や肝動脈化学塞栓療法などを行う場合もあります。抗がん剤治療に関しては導入時は入院が必要となりますが、継続していく場合には外來でフォローアップを行っています。また、肝動脈化学塞栓療法に関しては当院に経験豊富な放射線科医師が在籍していることもあり、当該科と相談のうえ治療方針を決定しております。

地域の連携医療機関さまへ

肝臓専門の医師が全体的に不足していることもあり、肝疾患に関しては当院にご相談いただくことも多いかと思われます。遷延する肝障害や偶発的に認められた肝腫瘍、またそれ以外にも奈良宣言2023にて提言されておりますALTL30以上の患者様など早期の肝障害に、関してのご相談など、可能な限り対応をさせていただきますので、お気軽にコンサルト頂けましたら幸いです。



消化器科医長

本田 宗也

専門/肝臓

日本内科学会認定内科医
 緩和ケア研修修了者

2013年 旭川医科大学第三内科
 2016年 遠軽厚生病院
 2018年 旭川厚生病院
 2020年 旭川厚生病院
 消化器科医長



肝臓グループ

主任部長 斎藤 義徳
 医 長 本田 宗也
 研 修 医 飛島 優也